



宮司プレス 第百六十一号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年十月二十九日

◇宮司の柴田です。先月は、月に二回発行するという奇跡ともいえるべき快挙を成し遂げ、「やればできる」という達成感に浸(ひた)りつつ、いたずらに時を過ごしてしまいました。気がつけば、一ヶ月ぶりの宮司プレス第百六十一号の発行となつてしまいました。月二回の発行を継続すれば、明年九月に遅れを取り戻せるという、「軌道回復ミッション」を、ひそかに計画しましたが、のつけから、「絵に描いた餅」となつてしまいました。お待たせ致しました、宮司プレス第百六十一号の発行です。来月の七日が、立冬(りっとう)ですから、当宮は、装束(しようぞく)、祭典(さいてん)で着装(ちやくそく)する狩衣(かりぎぬ)や白衣(はくえい)、袴(はかま)はたまた、烏帽子(えぼし)、祭典(さいてん)の折(をり)の頭(かぶり)のかぶりもの)まで、衣替(ころもが)えです。しかしながら、朝夕(あす)の冷え込み(ひよこ)に、とうとう、合(あ)い物の白衣(はくえい)に袖(そで)をとうしてしまいました。秋も深(こ)まりゆく昨今(けふ)です。

「音(ね)に聞き 眼(め)に見える物等(ものら) 悉(ことごと)に 産土神(うぶすながみ)の 御身(みみ) (みみ)にこそあれ」と、詠(よ)まれています。今、身のまわりに起こっている出来事は、すべて、神様(かみさま)のお姿(すがた)なのだ、この世(よ)になにひとつも人の力(ちから)の及(およ)ばないことばかり、恐れ(おそ)れつつしむことの大切(たいせつ)さを説(と)いています。そのように、謙虚(けんこ)に自分(おれ)を見つめ直す瞬間(とき)が、年毎(としごと)の例大祭(れいだいさい)なのではないでしょうか。六連島八幡宮(むつらじまはつたけ)を皮切(かわ)りに、田(い)の首八幡宮(うぶやまはつたけ)、さらに、当宮(あたみや)と例大祭(れいだいさい)を無事(むじ)に厳修(げんしゅう)すること叶(かな)いました。とりわけ、「コロナ禍(か)」ということで、非公開(ひひんこう)にしたり、短縮(たんしゆく)、省略(しょうりゃく)したりと、祭典(さいてん)の厳肅(げんしゆく)さ(げんしゆく)は、損(そん)なわなないよう配慮(えいり)しつつ、創意工夫(さいぎ)をして齋行(さいぎやう)しました。関係各位(かんげい)の御尽力(ごじんりき)に心(こころ)から感謝(かんしゃ)申し上げます。◇島根県(しまね)松江市(まつやま)の平濱八幡宮(ひらはまはつたけ)での六年半(ろくねんぱん)の御奉仕(ごほうじ)を終(お)えて、当宮(あたみや)の権禰宜(ごんねい)さらに、宮司(みやじ)を兼ね(かね)ている前住(まへぢゆ)の六連島八幡宮(むつらじまはつたけ)の首八幡宮(うぶやまはつたけ)の禰宜(ねい)に就任(しゅうじん)した、愚息(ぐしき)、明典(めいでん)と親子共々(おやこどもども)御奉仕(ごほうじ)できましたことは、感無量(かむりやう)でありますし、私は、果報者(かほうもの)であります。

ます。御祭神(ごさいじん)も御満悦(ごままんえつ)のことと拝察(はいさつ)申し上げますし、総代(そうだい)関係各位(かんげい)の皆様(みなさま)も喜んでくださいました。宮司(みやじ)家の承継(しょうけい)という大切なお役目(やくめ)を果たすべく、原点(げんてん)復帰(ふき)げんてん(かいき)でつとめて参(まゐ)る所存(しよぜん)です。宜(よろ)しくお導(みち)き、おひきまわしてくださいませ。

◇さて、世界(せかい)は、人口爆発(じんこうばくはつ)に始まり、経済(けいぎ)のグローバル化(ぐローバルか)、産業技術(さんぎんぎじゆ)の発展(はつぜん)に世界(せかい)が追いつかず、さらに、気候変動(きこうへんどう)や環境劣化(かんげいりょくか)、経済格差(けいぎかくさ)の深刻化(しんこくか)がすすんでいます。世界(せかい)の知識人(ちしきじん)は、「現代(げんたい)は終わりの始まり」と心配(しんぱい)しています。NPO法人(にっぽうほうじん)日本(にっぽん)を美しくする会(かい)の創唱者(そうてい)で相談役(さうだんやく)の鍵山秀三郎(かぎやまひでさぶ)さんは、「日本(にっぽん)はいま、物質(ぶつしつ)的な豊かさ(とんかさ)の中で、かつてないほど人心(じんしん)が荒廃(こうはい)している」と警鐘(けいしゆく)を鳴(な)らしておられます。確かに、戦後(せんご)、豊(とよ)かになるにつれて、大切な日本(にっぽん)の伝統文化(でんとうぶんか)歴史(れきし)を置き忘れて、地位(ちゐ)や名譽(めいよ)、お金(かね)ばかりを追い求めてきたのではないのでしょうか。それは、戦後(せんご)の大復興(だいふくしゆく)が、「幸せ(しあわせ)は物が豊(とよ)かになること」が、大目標(だいぎく)であった負(おん)の産物(さんぶつ)でもあります。千利休(せんりきよ)は、導歌(どうか)に、「稽古(けいこ)とは一(ひと)よりならい 十(じゆ)をしり 十(じゆ)よりかえる もとのその一」と、論(ろん)されています。神社(しんじ)神道(しんどう)は、「よみがえり、生まれかわり」を大切に、

さらに、その思いを累加(るいか)、繰返し繰返し、積み重ねてまいりました。そのことが、「もとほる」、「元に戻る」という営みにほかなりません。世界も日本も「終わりの始まり」になるのではなく、「よみがえり、うまれかわり、もとほる」の始まりになるよう、謙虚に振り返る、「もとのその一」になる瞬間である、日々月毎折節(おりふし)の祭典の厳修を心掛けたいものです。(ご自愛をお祈り申し上げます)。

◇十月の祭典行事報告(予定も含みます)

- ▼月次祭 *十月一日、十五日
- ▼早起会参拝 *十月一日、半年振りの再開
- ▼貴布禰神社月次祭 *十月一日
- ▼柴田明典権禰宜就任奉告祭 *十月三日
- ▼六連島八幡宮例祭 十月四日～五日
- ※四日の前夜祭では、湯立神事齋行
愚息の禰宜就任奉告祭を齋行



▼田の首八幡宮例祭 *十月十日～十一日
※十日の前夜祭では、愚息の禰宜就任奉告祭を齋行

- ▼舞子島八幡宮例祭 *十月十五日
- ▼例祭 *十月十七日～十八日
- ※サイ上がり神事は、非公開で齋行
- ▼朝粥会 *十月二十一日
- ※半年振りの再開
- ▼十月限定御朱印 *秋季例大祭限定
※十月末日まで頒布しています

- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◆山口県神社庁下関支部宮司会 *十月九日
- ◆神社庁講演講師養成研修会 *十月十二日
- ◆神社庁役員会 *十月十二日
- ◆神社庁支部長事務局長会議、神宮大麻頒布始祭臨時協議員会 *十月十三日
- ※愚息、柴田明典の辞令伝達式がありました



◆山口県神社庁下関支部神宮大麻仕分け作業 *十月二十八日

- ▼美祢社会復帰促進センター教誨活動
- ◆集合教誨(女子) *十月十九日
- ▼その他
- ◆敬神婦人会清掃作業 *十月四日
- ◆中央倫理法人会モーニングセミナー *十月八日
- ◆人権擁護委員研修会 *十月八日
- ◆維蘇志会清掃作業 *十月十一日
- ◆責任役員常任総代会 *十月十八日
- ◆迫町自治会役員会 *十月二十一日
- ◆ジェイコム下関の「下関人図鑑」に出演 *十月一日～十六日

<https://jinzukan.myjcom.jp/shimonoseki/>
↓ 御覧になれます